

## 第2回新しい学校づくり三好市・東みよし町地域協議会議事録

【協議題】 「三好地域に必要な教育について」

【協議】

委員

「子どもの特性を活かす視点」「地域の人材を育てる視点」から新しい学校の教育についての資料を提出されましたが、今の実情で、果たしてこうした教育ができるのでしょうか。池田高校の野球部が全国制覇したときは、監督を慕って生徒が集まってきていました。教員の人間としての魅力に生徒が集まってくると思います。第一に人材を集めることから始めるべきでないでしょうか。まず、教員人事において、トップに高い専門知識のある人を置き、学生を引きつける教育ができる資質を持った教員の配置を教育委員会として考えてもらいたいと思います。

県教育委員会

教員の人事異動について要望があったということでお聞きし、ご意見として受け止めたいと思います。

委員

要望があったということで繋ぐだけでしょうか。どこでどう考えるのですか。昨年度末に、三好高校について約8,000名の陳情書を県及び教育委員会に提出し、実業教育の重要性について理解を求めたこともありましたが、正式な回答が得られませんでした。こんなことで百年の大計を考えた学校再編が本当に出来るのでしょうか。内容の伴った責任ある返答を求めたいと思います。

委員

新しい学校をどういうものにしていくかを考え、それが見えてきたときに、委員会としてどう対応し態勢を整えていくのか、議論を深めていったらよいのではないのでしょうか。

委員

専門高校に対する叱咤激励とお聞きしました。現場の校長としてこの再編を成功させ、その後の適切な教員配置と専門性を高めるような配慮をお願いするとともに、我々現場の教員も努力したいと思います。

県教育委員会

三好地域の新しい学校の教育については、協議が始まったばかりです。新しい学校の教育の方向が決まってまいりましたら、それに合った教育の内容に沿って、教員の配置等についても所管課に働きかけたいと思います。

委員

三好高校、辻高校ともに、中学校からの生徒の人気の高まっていることを知りました。その理由を考えることで、行きたい高校の姿が生まれてくるのではないのでしょうか。「地域に必要な教育はどういったものなのか」を切り口にして考えていけばどうかと思います。例えば、池田町内の方の話では、酒の製造で杜氏の方が不足していると聞きます。地域で養成できないものでしょうか。魅力ある高校づくりの一つとしてお考えいただければと思います。

委員

イメージとして、池田高校は普通科で進学、三好・辻高校の半分は就職して地域に残っていると思うのですが、実際はどのようなのでしょうか。それによって必要になってく

る学科が変わってくるのではないのでしょうか。

委員

辻高校では、進学が3割が大学・短大、4割が専門学校で、ほぼ7割強が進学です。就職は3割で、就職者のうちの3分の1が地元への就職です。

委員

三好高校は6割が就職、1割が大学短大、3割が専門学校です。地元への就職希望者が多く、昨年度は就職者51名のうち、県内15名、香川県に3名、四国中央市内に10名という現状です。

委員

入口と出口の問題についてですが、生徒の興味・関心を知るために、体験入学において生徒に人気のあるコース・学科、また、進学でも就職にしても生徒の希望がどこにあって、希望どおりになっているのかを教えてくださいたいと思います。

委員

辻高校では、この夏、約300名の中学生が体験入学に参加してくれました。体験入学生生のアンケートで人気が高かったのがコース制についてで、在校生のアンケートにおいても、「良かった」とする生徒92%、保護者97%です。なぜコース制がよいのかということですが、自分の進路について、早い時期の1学年の7月から考える機会をもつようになり、後の2年間で進路や興味・関心に応じたコース固有の内容を学ぶからでしょう。昨年度は、就職生が第一希望の就職先から、全員内定をいただくことができました。

また、中学生に人気のあるコースは福祉コースです。定員25人に対して100名近い希望が集まります。入学後のコース選択では、60名近くが情報科学コースを希望し、文理コースも進学のきめ細かい指導に人気があります。しかし、体育健康コースは、他のコースに比べて人数が集まらない現状です。人文教養コースは年度によって違うので一概に判断できません。

委員

三好高校ですが、今年度の体験入学は90名の中学生が参加してくれました。本校は、専門高校として就職をメインに考えています。専門教育を学ぶことで資格を取得し、自分にあった道を選んでいくという進路指導をしています。

委員

来年の定員ですが、3高校で何人ぐらいになるのでしょうか。参考までをお願いします。

事務局

本年度の定員を目安にさせていただけたらと思います。本年度の定員は、池田高校215名、辻高校150名、三好高校80名、計445名です。

委員

現状から考えますと、中途退学者や早期離職、ニートやフリーターについてもしっかり考えて教育をしていかなければならないと思います。自立して、心配を掛けない、やがては家族をしっかりと養っていくことが必要だと考えます。素晴らしい教育をされている両校に、そのあたりの実態もお聞きしたいと思います。

事務局

辻高校でも、中学校から不登校傾向があった生徒で、高校で適応できない生徒の場合

は、入学後早い時期にやめていくケースがあります。しかし、それを乗り切ると、中途退学者はほとんどなくなります。

委員

不登校の原因の一つに、システムの問題があると思います。まず中1ショックがあります。これは、学級担任制から教科担任制に変わったり、部活動が加わったり、縦や横の対人関係が変化する中で、コミュニケーションを取れなくなることが原因となります。また、それまで義務教育の中で手厚く先生にフォローされていた環境から、義務教育を離れ自己責任が問われるところで崩れてくる高1ショックがあると思います。先生方が一人ひとりの生徒にかなりの労力をかけて、瀬戸際で卒業している生徒さんも多くいます。きめ細やかな指導に感謝しております。

委員

本校でも、そういった傾向は見られます。1年生を乗り越えてくれたらほとんど大丈夫です。不登校傾向にあった生徒が、農業や商業の実習を通して、何の問題もなく卒業しています。問題行動を起こす子供たちに対しても、適切な関わり方を研究していかなければならないと思っています。しかし、安全で安心な学校生活を妨げる生徒に対しては厳しい対応をしています。

委員

特別支援を必要とする子どもも多いと聞きますが、それらについてお話をしていただけませんか。

委員

特別支援の必要な生徒が各学校に進学しています。配慮が必要な生徒が集団の中で学んでいけるように関わってもらっています。最大限の配慮をいただいていると思っています。子どもたちを温かく包んでいただける指導にご苦労されているのが現状です。中学校時代に不登校だった生徒が高校で普通に登校していたり、ほとんどしゃべらなかつた生徒がしゃべっていたり、高校進学を機に、スムーズな切り替えを支えてもらって持ち直している子がいるのも現状です。きめ細やかな対応に感謝しております。

委員

そういう子どもたちも、高校に入学して、自分を発見していけるような新しい学校を作ってもいいんじゃないでしょうか。

委員

多様な子どもを受け入れ育てる受け皿として、どんな教科やコース、農業教育にこんな効果があるなど、ご提案はないでしょうか。

委員

ひとつは対人で癒される子がいます。新しいふれ合いの中で自分の位置を確立していく子どもです。もうひとつは、人以外のところ、例えばパソコンや動物を通して居場所を確立し、息が抜け伸びていくなど、大きくこの二つに分かれると思います。

具体的には、人と関わることで癒される福祉や看護系のコース、パソコンやものづくり、動物との触れ合いで癒され、自分の道を確立していく商業や農業が考えられると思います。

委員

これまでの流れの中で考えると、商業関係、農業関係、家政を含む福祉関係でこの地域の新しい学校づくりを考えるべきではないかと思っています。ただ、生徒自身が入学するとき何を学びたいか、進学して思いどおりになっているかなどを含めて考える必要が

あると思います。農業関係では、他の地域からの入学を増やすためにも、魅力ある農業関係の学校をつくるべきではないでしょうか。

特別支援教育については、一人ひとりみんな違います。その子どもたちが、どこに興味があるのかに気がつき、良さを引き出してやることが必要だと思います。

この再編では、三好地域として生徒数が減っている現状から、普通科と職業高校の2つにしようということであろうと思います。その職業高校の中で、三好高校と辻高校が一緒になった新しい学校の教育を考える上においては、何がこの地域では必要かを討議していかなければならないのではないかと思います。

委員

本日の協議会では、目指す学校像・育てたい生徒像、そのために必要な学校教育について多くのテーマを出してもらい、次回までにそれを事務局で整理し、提案していただき、次回の協議会でより深めようと考えていたのですが、今回は学校現場の現状を認識する状況に止まっています。いろいろな発言やテーマを出していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員

新しい学校の教育を考える中で、単なる数合わせではいけないでしょう。地域の産業や経済の発展・活性化を考えていく中で、学科やコースの精選をすることが重要だと考えます。今後の協議の内容につきましては、事務局から、会議の前に宿題として出してもらって、それぞれに考えてきて持論を出し合うようにしたらいいのではないのでしょうか。

委員

学科制とコース制の違いは何か、また、どういう方向が子どもたちに向いているのか。いろいろなパターンを示していただき、説明していただきたいと思います。

委員

3校で生徒の奪い合いをしては、本当に良くなるとは思えません。柿は700種類あります。渋柿もあれば甘柿もあります。それぞれ食べ方、加工方法も違います。どの子も甘い柿になれるというのは無理ではないでしょうか。保護者とともにその子どもの興味・関心、適性を考え、将来を見据えた進路を考えていく教育が大切ではないでしょうか。

この協議会では、地域を大切に考えた教育を考えるべきではないでしょうか。事務局には、次回に向けて研究する宿題を提供してもらいたいと思います。

委員

事務局に、目指す学校像の案を提出していただき、それをたたき台に意見を出し合おうということでしょうか。

委員

そうです。

委員

三好高校が、不登校傾向であった生徒の立ち直りに、小集団での授業や実習を通して実績を上げておられます。このことについても、詳しく知りたいと思います。

委員

時間が来ていますが、次回の会の方向を見つけたいと思います。もう少しご意見をいただければと思います。

#### 委員

三好3校を2校にしていく必要があることと、どのような教育内容のカリキュラムをつくっていくかの2つの流れがあると思いますが、美馬4校も含めた7校として考えていく必要があると思います。学校再編は、経済的な問題も避けて通れないことです。少ない生徒数では競争もできない、入学が40人1クラスしかない学校にはすべきでないと思います。また学校教育は、社会を支えていく人材を育てるのが最終目的だと思います。企業が求める人材を提供できる学校教育を求めています。ニートやフリーターは家庭の問題で、学校に持ち込む問題ではなく、学校では生徒の進路をどう伸ばしていくかが求められていると思います。当社に、「今年は推薦できる生徒がいないから来年まで待ってほしい」と断られる年もありますが、学校から推薦された生徒は誰一人辞めずにいます。生徒の資質を見抜いて、企業に送りだしてくれる先生の指導が大切だと思います。周辺の学校も絡んで、社会にどういう人材を作りだしていくかの大きな2つの流れの中で議論を深めていったらいいのではないかと思います。

#### 委員

前回、学校間格差の問題が出ましたが、教科だけの問題でなく、どういう学校、どういう生徒にすべきかについてもご意見をいただければと思います。

#### 委員

高校だけの問題ではないテーマも多くありましたが、委員の方の高校にかかる思いが強く感じられました。生徒を成績によってランク付けしているのではないかと、最近、そうした区分がなくなってきたのではないかというご意見もありましたが、成績だけで学校を決めるのではなく、子供たちにも行きたい学校の希望があるのは確かです。

高校の現状が十分わからないままで、三好地域に必要な教育を考えていくのは難しいものです。ただ、農業林業は子どもたちの心の部分に対しても、これからの地球環境や食糧危機にとっても三好地域において重要なポイントとして置いてほしいと思います。

#### 委員

成績で学校を振り分けていると思っていたのですが、体験入学で学校を知り、入学していることを聞いて、考えも変わってきています。学校の定員については、子どもたちの進路の希望を聞いて、要望を取り入れて考慮していただきたいと思います。また、行政サイドに企業誘致をお願いして、それに見合う資格を考えた学科、商業や農業系の設置を考えていったらよいのではないのでしょうか。

#### 委員

学校格差の問題を、払拭することが、今回の学校再編の大きなテーマではないかと委員さんがおっしゃいました。その通りだと思います。新しい学校は、「こういう事がやりたいからこの高校へ行きたい」と、積極的に行きたい学校にしたい。そのためにどうしたらいいかを考えることが大きなテーマです。地域で、すばらしい人材を輩出している学校と評価され、他の地域からも入学してくる学校を目指しましょう。専門知識の習得や勤勉さ、忍耐強さ、明るさ、素直さを身に付けたすばらしい人材が育つ。それが新しい学校の姿ではないかと思います。そのための教科や生徒指導、地域社会との連携方策など、幅広い議論が必要ではないかと思います。いろんな意見を出し合って煮詰めていく中で、選択し絞っていく過程を踏まなければいけないと思います。何もない所から創りあげ、まとめていく事も大切ではないのでしょうか。

#### 委員

白紙の状態から議論していくことは難しいのではないのでしょうか。一応事務局から提案していただき、議論を深めていく方がまとまっていくのではないかと思います。

委員

これまでの三好高校，辻高校のしっかりした土台をふまえて，共通理解を持って取り組んでいったらよいと思います。一步踏み出して，建設的に行ったらよいのではないかと思います。

委員

今の2校が持っている良いところをどう活かすのか，また必要であれば何を足したらいいのかという意見だと思います。

委員

各委員が思っていることを文書で提出して，次回の検討議題にしてはどうでしょうか。

委員

各委員から，どんな学校にという思いを事務局に提出してもらうことで，時間の節約にもなると思います。

委員

協議会の会則をみると，実務者会議が位置づけられておりますので，実務者会議で議論をし，案を出してもらってはどうか。

委員

まずは，地域協議会で意見を出し合って，委員が方向性を決め，それを実現させるために，実務者会議で検討してもらうという段階を経るべきではないでしょうか。

県教育委員会

「両校ともしっかりした土台のある教育をしている。たたき台を出していただきたい。」とのご意見をいただきました。これまでに出たご意見を参考に，新しい学校の教育について事務局から提案し，今回はそれをもとに議論をいただければと思います。

委員

学科制，コース制についての調査をしていく必要があると思います。2校の取り組みの中に2つの方向があります。それらを充分活かした方向を考えていかないと無理が出てくると思います。学科制だとか，コース制に固まってしまうのではなく，学科制の中にコース制を取り入れるとか，コース制の中に学科制を位置づけていくとか，意見を集約する過程で配慮をしていただければと思います。

県教育委員会

三好高校は学科制，辻高校は普通科コース制とそれぞれ特色を持っています。コース制と学科制をともに維持した場合とか，すべてコース制，または学科制にした場合とか，いくつかのケースをたたき台としてお示しして議論いただき，その中で新しい学科を考えるのかどうかについてご検討いただきたいと思います。次回の地域協議会では，事務局からそれぞれのパターンを提示させていただきますので，委員の方からのご意見も，両校事務局へお送りいただければと思います。それを踏まえて，たたき台を作成いたします。

委員

現状把握についてのご質問も含め，ご意見を両校事務局までお送りください。また次回は午後6時30分から午後9時までということでお願いいたします。